



【くにい ゆうじ さん】若草 / 58 歳  
● 20 年以上前から子どもたちのために、自宅の庭で雪像をつくっている。自宅のほか、ちびっ子雪ランド in サケふるや商店街で行う行事などで雪像づくりにかかわり、雪をつかって冬を楽しむ活動に幅広く取り組んでいる。

雪をつかって  
冬を楽しみましょう！

## 道

の駅サーモンパーク千歳で開催中の「ちびっ子雪ランド in サケふる」では、大きな雪のすべり台や雪像づくり体験などで雪あそびを思いきり楽しめます。

ちびっ子雪ランドの会場づくりは、ときには氷点下 20 度という寒さの中で行います。国井さんは指導員として、10 人の制作員とともに会場の雪像づくりを手がけました。

道の駅などの行事で雪像づくりにかわる国井さんは、20 年以上前から自宅でも雪像をつくり、子どもたちの楽しみのひとつになっています。

「私の娘が冬に遊べるものとして、雪のすべり台をつくったのがきっかけです」と話します。3 人の娘が成長し

た現在も毎年続けている雪像づくり。自由に見学することができ、今では市外から訪れる方もいるそうです。

毎年、アニメーションの登場人物などをテーマにした雪像を、高さ 4 メートル、幅 7 メートルの大きさでつくり、夜間は明かりで照らしています。

「冬になると、通学途中の子どもが『今年はなにをつくるの』と声をかけてくれます。楽しみにしてくれる方がいてうれしいですね」と国井さん。

自宅の雪像づくりに設計図はありません。約 1 週間かけて、ひとりです上げていきます。

「大きな雪像を見る視線は、見上げるようになりまます。見る方の視線にあわせて形をつくるのが大切です」と、

作業中何度も足場を上り下りして雪像のバランスを確認します。

人物の顔などは、その表情を出すことが特に難しいと言います。白一色の雪の固まりを彫り込み、日光の当たり方の違いにより、顔に濃淡をつけます。

気温の変化などで雪がとけ、雪像の表情は日々変わるため、完成したあとでも手直しは欠かせません。それでも、雪像づくりを大変と感じたことはないそうです。

「私自身が雪で遊ぶことを楽しんでいきます。この地域から冬に雪がなくなることはありません。見て・遊んで・つくって、雪のある生活を楽しみましょう」冬の寒さを吹き飛ばすように熱く語ってくれました。

人 の いる 風景

SCENERY OF PEOPLE



国井

YUJI  
KUNII

勇治

さん